

## 那珂川アユ遡上・放流状況調査（平成23年度／県単）

吉田 豊

## 目的

那珂川のアユ資源動向を把握することで適正な漁場運営に寄与するため、アユの遡上状況および放流状況の調査をおこなった。

## 材料および方法

**アユの遡上・放流状況** アユの遡上状況については茂木町河井（河口より49km）および大畑（同55km）の2地点において3月1日から6月30日の間、毎日の遡上状況について現地調査員に委託してデータを収集した。観察の時間や回数による影響を除くため、同日に観察された遡上群は地点ごとにまとめて1群とした。両地点で観察された群数の合計を遡上群数とした。初遡上日の確定については、現地調査員の情報やその他漁協組合員等より現場へ寄せられた情報をもとに、水試職員が採捕を行って確認した。また、平成7年以降の遡上群数について、平成7年から12年、13年から18年、19年から23年の3期に分けてそれぞれ平均値を算出し、近年の遡上時期の傾向について調査した。アユの放流状況については栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員4漁協の放流記録によった。

## 結果および考察

**アユの遡上状況** 県内で初めてアユの遡上が確認されたのは4月12日で、平年（平成元年から平成22年までの平均値）より7日遅かった（図1）。

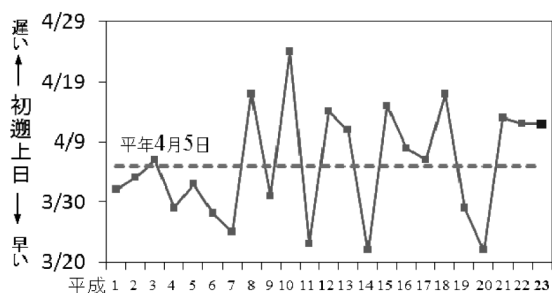


図1 初遡上日の推移

今年度の遡上群数は56群で、平年より12群多かった（図2）。遡上のピークは平年とほぼ同様の5月中旬であったが、昨年度と同様、4月下旬まで平年よりも群数が少ない状況が続いた（図3）。

平成7年以降の3期について、いずれの場合でも旬別遡上群数のピークは5月であった（図4）。平成7年から12年、および平成13年から18年の間の期では、4月中旬にも小さいピークが認められ、このころまでに平均8~9群の遡上群が確認されていた。しかし、平成19年から23年までの期では4月中旬の遡上群数が平均5群程度と少なくなる傾向にあり、近年遡上初期の群れが減少していることがうかがわれた。

**アユの放流状況** 放流されたアユの平均サイズは16.6gで、平年（平成5年から平成22年までの平均値、以下「平年（平成5年以降）」とする）より1.8g大きかった（図5）。放流重量は14.9tで、平年（平成5年以降）より5.5t少なかった。放流尾数は90万尾で、平年より55万尾少なかった。

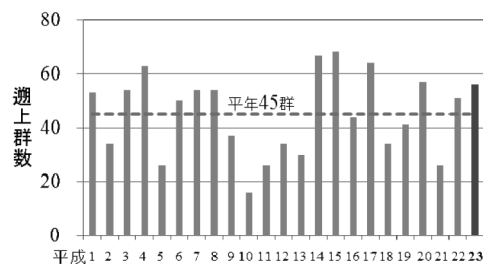


図2 年別の遡上群数の推移

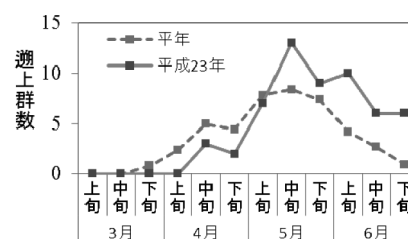


図3 旬別の遡上群数の推移

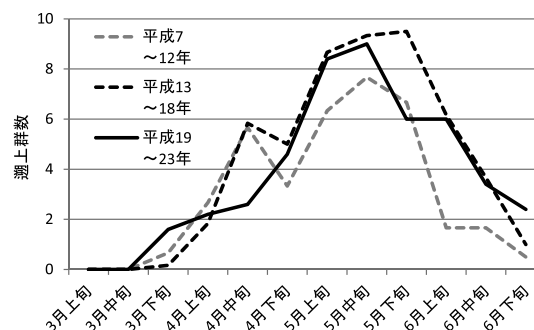


図4 旬別遡上群数の推移（期別）

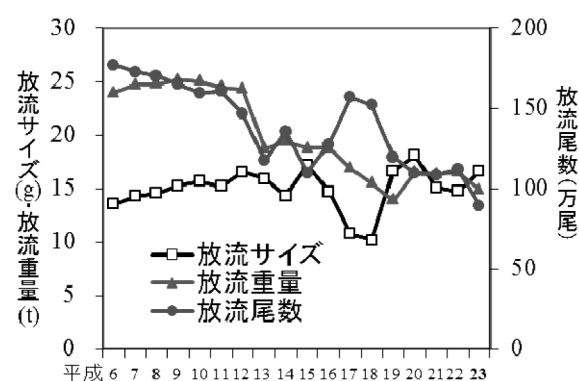


図5 種苗の放流サイズ・放流重量・放流尾数の推移

(指導環境部)